

## たった一つのその言葉

大学三年生の時、南国リゾートとして有名なタヒチで一ヶ月、ホームステイをした。真白な砂とエメラルドグリーンの美しい海を眺めながらも、私の心は浮かない。日本語を喋れる人は周囲に一人もおらず、勉強していったはずのフランス語もろくに通じない。それどころかホストファミリーの言葉を聞き取ることさえままならず、聞き返すと困った顔をされてしまう。日本にいる時にはありえない、「言葉が通じない」という日常に、心が疲弊していた。そんなある日、島の間を行き来するフェリーの屋上で夕日を見る機会があった。薄紫に色づいていく空、地平線に近づいて溶けるように反射する太陽の光。視界を埋めつくす美しさに思わず息をのんで、拙いフランス語で夕日がきれいだね、とホストマザーに言った。彼女はにっこり笑って、「そうでしょう。フランス語では日が沈むことを『太陽が寝る』とも表現するの」と言う。簡単な言葉だが詩的で美しい表現だと思った。教えてもらった言葉を忘れないように口の中で繰り返すと、じんわりと嬉しさが心に広がった。

数日後、ホストマザーの知り合いの家族に会う機会があった。ホストマザーに紹介してもらい、デジカメの写真を見せながらタヒチの日々を説明する。分からない言葉を辞書で調べながらのたどたどしい説明にも皆、頷きながら聞いてくれる。一緒に写真を見てみると、いつぞやの夕日の写真があった。あの表現の使い時だ。「これは、島に来るフェリーの屋上で見た『太陽が寝る』ときの写真でね」とすると目の前にいた、家族のおばあちゃんがゆっくりと言った。「『太陽が寝る』って素敵な表現ね」それを聞いたホストマザーがにっこり笑った。つられて私も微笑む。言葉が通じない、そんなことはなかった。わからない言葉が多いからと逃げているだけだった。一つ一つ積み重ねて言葉を学ぶ嬉しさを教えてくれたこの表現を、私は決して忘れることはないだろう。